

3年D組 外国語科 単元設計・学習指導案

指導者 向井 俊博

1 日時(場所) 12月9日(木) 8:45~9:35 (3年D組教室)

2 単元設計(単元名:Unit 5 A Legacy for Peace)

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

- よりよい社会や自分の姿を思い描く力
- 問題の解決に向け、自ら考え、見通しを持って行動する力
- 自分の気持ちや考えを表現し、伝える力

(2) 単元目標

- 物語を読み、登場人物の行動・心情の変化やあらすじを理解したり、今後の展開を予想したりすることができる。 「知識及び技能」
- 物語を読み、内容について分かりやすい英語で表現し、考えたことや感じたことなどをグループで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 級友の発表を聞いて、コメントを述べたり質疑応答をしたり、分からない語句があったとしても粘り強く英語を用いてやり取りをしようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 (第3学年 Stage 2)				
話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと	聞くこと	読むこと
日本や海外の文化などについて、質問をしたり答えたりしながら、理解を深めていくことができる。	日本や海外の文化などについて、自分で作成したパンフレットなどを活用し、さまざまな情報を加えながら、紹介することができる。	日本や海外の文化などについて、文章構成を意識したまとまりのある文章を書くことができる。	海外の文化などの紹介や、社会的な話題についての短いニュースなどを聞いて、概要や要点を理解することができる。	日本や海外の文化、社会的な話題などについて、イラストや写真、図表なども参考にしながら、内容を読み取ることができる。

(3) 重点目標

＜本質的な問い＞

物語を読み、その良さを英語で共有し合うためにはどうすればよいか。

＜永続的な理解＞

物語の良さを共有するためには、次の三つの視点が必要である。一つ目は、物語の内容を理解しようとすることである。物語全体の構造(起承転結)をつかみ、登場人物の心情を想像したり、心情の変化を意識したりしながら読むことが大切である。二つ目は、自分の考えを持つことである。物語を読み、自分が感じたことを言葉にすることである。三つ目は、相手の考えを聴いたり、自分が分からなかったことを尋ねたりと積極的にやり取りを行う姿勢を持つことである。相手の発表内容に興味を持ち、コミュニケーションの型やアイコンタクト、うなずきなどのコミュニケーションスキルを活用してやり取りすることである。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①今までに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ②実際のコミュニケーションにおいて、物語を読んだ感想や感じたことについて、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	①物語を読んで他者の考えを知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えている。 ②物語を読んで、その内容や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	①物語を読んで他者の考えを知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えようとしている。 ②外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いてやり取りしようとしている。

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは今、海外に留学しており、平和や人権の大切さに関する授業を受けています。あなたはインドのガンディーの功績を調べました。インドのガンディーのことを知らない生徒が“ How did Gandhi work for Indian independence? What do you think about? ”と尋ねてきました。2分間やり取りをして、ガンディーのエピソードに触れながら、自分の考えを英語で伝えましょう。	○リテラチャー・サークルの各役割のワークシート ○ループリック評価表 ○360度カメラで記録されている動画 ○平和・人権に関する自分の考えを書いたワークシート

＜パフォーマンス課題の予備的ルーブリック＞

条件 1：物語中の英文や相手が話した内容を引用するなどしている。
条件 2：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
条件 3：相手に考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり，効果的に引用したりしながら，三つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えを詳しく述べたり，効果的に引用したりしながら，三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
B	誤りが一部あるが，コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	三つの条件を満たしてやり取りしている。	三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
C	誤りがあり，話したり聞いたりすることが難しい。	三つの条件を満たしてやり取りしていない。	三つの条件を満たしてやり取りしていない。

(6) 指導計画（全 10 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・関係代名詞 who, which(主格)を用いた文の形・意味・用法を理解し，状況を説明できるようにする。	知		・関係代名詞 who, which(主格)を用いた文の形・意味・用法を理解し，運用している。 (ワークシート)
2	・関係代名詞 that, which(目的格・接飾)を用いた文の形・意味・用法を理解し，状況を説明できるようにする。	知		・関係代名詞 who, which(目的格)を用いた文の形・意味・用法を理解し，運用している。 (ワークシート)
3	・Preview, Scene 1 と 2 の内容を理解する。	思		・登場人物の気持ちを意識し，抑揚を付けながら，正しく英文を読もうとしている。(観察)
4	・Read and Think 1 と 2 の内容を理解する。	思	○	・登場人物の行動や心情の変化，あらすじなどを読んで，理解することができる。(観察)
5	・“A Legacy for Peace” の話合いを行うための準備をする。	思	○	・物語を繰り返して読んだり，読み返したりしながら読み続けようとしている。(観察)
6 本時	・リテラチャー・サークルを通して，“A Legacy for Peace” の内容について話合いを行う。	知 態	○	・物語の内容に沿って，自分の考えを英語で言おうとしている。(観察)
7	・パフォーマンス課題に取り組み，内容を深く考え，自分の考えを英語で述べるようにする。	知 思 態	○ ○ ○	・パフォーマンス評価 (支援) マッピングやワードリストを確認させ，自分の考えをキーワードをもとに言えるよう助言する。
8	・グラフや表から読み取った情報について，事実と意見を分けて書けるようにする。	知	○	・資料から読み取った事実と自分の意見とを分けて，まとまりのあるレポートを書こうとしている。 (ワークシート)
9	・日本の行事や風物を英語で理解したり，どのように説明するか考えたりすることができる。	知 思		・日本や郷土の文化などを紹介する文を，詳しい情報を加えながら書こうとしている。 (ワークシート)
10	・日本の行事や風物を英語で説明したり，関連する質問に答えたりできる。	知 思 態	○	・日本や郷土の文化などを紹介する文を発表したり，その質問に答えたりしようとしている。 (観察)

「重点」は，重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており，観点の略称は以下の通り。

知識・技能…「知」 思考・判断・表現…「思」 主体的に学習に取り組む態度…「態」

重点としていない観点についても，生徒の学習状況を評価し，教師の指導改善や生徒の学習改善に生かす。

3 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒たちは今まで英語での問答ゲームや A L T との対話形式でのパフォーマンステ

スト、リテラチャー・サークルなどを継続して行ってきた。アイコンタクトや笑顔、リアクションなどのコミュニケーションスキルも積極的に使用して、英語で話すことを楽しむ生徒もいる一方、英語に苦手意識を持ち、英語を話すことに消極的になっている生徒もいる。そこで、生徒にアンケートをとり、ソシオメトリーによるペアリングを行い、「英語の苦手な生徒」が「英語の得意な生徒」に教わることでできる場面を設けた。また、自分の考えを英語で述べやすくするために「話型」を用いた。その結果、まとまりのある英文を読んだ上でその内容について級友と質疑応答したり、自分の考えや感想を話したりすることができるようになってきている。

本学級の生徒は、相手の考えを真剣に聞き、それを踏まえて自分の考えを述べることができる。また、英語が伝わることを楽しく感じ、学習に積極的に取り組むことができる生徒が多い。だが、文法的に正しく英語で話すことが苦手であったり、語彙力が不足しているため、言いたいことを言えなかったりすることがある。そこで、ジグソー学習や学びの振り返りの場面を設定することで、自分の学びの状況や間違いに気付く、自ら改善していこうとするようにさせた。また、仲間とともに協働で英語を学習していくことで、英語を積極的に用いて英語でやり取りできる生徒を育成したい。

(2) 単元について

本単元はガンディーの伝記“A Legacy for Peace”であり、ガンディーの生い立ちや非暴力を基本とした独立運動の概要が書かれている。ガンディーは理不尽なことに屈しない心を持っている一方で、暴力に訴えない行動を信条として、世界平和に向けて自分はどうすべきかを考えていた。この物語を通して、以下の三つの学びを保障したい。

一つ目は、物語文を読み概要を捉える力を育成することである。パートや段落ごとに5W1Hの情報をつかませたり、時に関する表現、接続詞などに注目させることで、話のあらすじをつかませたり、今後の展開を予想させたりしたい。

二つ目は、思考力・判断力・表現力を向上させることである。リテラチャー・サークルを行うことで、ガンディーの生い立ちを考えたり、南アフリカでの人種差別やインドの植民地支配からの独立のためにガンディーが行ったことを相手に分かりやすく伝えるためにどのようにまとめたらいいかを考えたりさせることができる。また、世界平和に関する話合いを通して、相手の考えを聞く姿勢を身に付けさせたり、お互いの考えを意見交換させたりすることができる。

三つ目は、生徒が主体的に学ぶことである。四人一組となるリテラチャー・サークルを行うことで、生徒たちはさまざまなものの見方や考え方を知り、感じたことや考えたことを伝え合うことができる。また、ガンディーの行動力から得られる平和への強い願いを踏まえて、自分はどうかすべきかを考え、級友たちと共有しようとすることに結び付けやすい教材である。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

ア お互いの意見や考えを交換したり、質疑応答をしたりする時間の設定

生徒が物語を読んだとき、内容に分からないことがあれば、その内容を言葉にし、物語の中から根拠を見付ける。自分の感じたことに対して、同じ物語を読んだ人がどのように感じたかを確認することで、意見が生まれる。物語を読み、他者と意見を交わすことで、多様な見方や考え方があることや、一人で読んでいただけでは分からなかったことに気付かせたい。

イ 「つながり」を意識したディスカッション

物語を読み、その内容と自分の経験とのつながりについて話をさせる。また、自分の考えを話したり、意見を交換したりすることで、グループのメンバーと関わらせる。そのような「つながり」を意識させることで、英語を主体的に学ばせていきたい。また、生徒は2年生でマザー・テレサについて、3年生で広島原爆に関する物語を読んでいる。平和に係る語彙についてまとめたワードリストも作成しており、今までの平和学習でのつながりが生かされるディスカッションとしたい。

ウ ミニレッシンを行うことや振り返りシートの活用

ミニレッシンを行い、前回のリテラチャー・サークルの振り返りを行う。そして、リテラチャー・サークルを行うごとに振り返りシートを記入させる。タイトル、役割、班の目標、達成できたこと、改善点、感想などを書かせて、学びを継続させる。生徒に「達成感」や「課題」を感じさせたり、よりよく英語を使っていこうとする意識を持たせたりすることで、積極的に英語学習に取り組む学習者の育成を目指したい。

4 本時の指導（6／10 時間）

(1) 主題 物語を読んで、感じたことや学んだことを語り合おう。

(2) ねらい

○物語を読み、感じたことや考えたことをグループで積極的に質問し合ったり応答し合ったりすることができる。

○5 W 1 Hを用いて質問したり、結論を先に言ってから理由を述べたりすることができる。

(3) 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 英語で問答ゲーム（ペア）	4	○“Who is the person you respect?”のテーマで話そう。 ・ The person I respect is my father. He taught me a lot of important things. He has a lot of useful knowledge. He is my role model.	○相手に分かりやすく伝えるために、結論を先に言ってから理由を述べたり、5 W 1 Hを意識して質問したりして内容を深めさせる。
CAN-DO We can think about why Gandhi's peaceful fight was successful.			
2 復習（一斉）	2	○本文内容を一度読み、内容を大まかに理解する。	
3 ミニレッスン（全体）	5	○前単元でのリテラチャー・サークルを振り返り、良かった点・改善したい点を確認する。	○今回の取組への意欲を高めるために、前単元での話合いの映像や文字起こしを用いて、課題や良かった点を述べたり、話合いの視点を確認したりさせる。
4 話合いのための準備（グループ）	8	○同じ役割で集まり、自分の役割の内容を確認する。	○自信を持って話合いをするために、ジグソー学習を取り入れ、話し合って準備させる。
5 話合い（グループ）	15	○ワードウィザードが語句の説明をする。 ○サマライザーが要約を説明する。 ○イラストレーターがイラストを説明する。 ○クエスチョナーが質疑応答をする。 ○コネクターが自分の経験を話す。 ○まとめの話合いを行い、単元を通して感じたことを話し合う。	○結論を先に言ったり、5 W 1 Hを意識して自分の考えを述べたりすることで、相手に分かりやすく伝えさせる。 ◎積極的に感想を述べたり質疑応答をしたりしている。 （発話棒・360度カメラ）
6 発表（全体）	8	○全体で感想を共有する。 ・ Gandhi moved people's heart because he stood up against the bad law, but he didn't use violence. He taught us a new way to fight against discrimination.	◎話合いの中で5 W 1 Hを用いて質問したり、結論を先に言ってから理由を述べたりすることができる。 （ワークシート・360度カメラ）
7 振り返り（グループ） →（個人）	8	○話合いを通して学んだことや達成できたこと、課題や改善点について話し合う。 ・ I understood Gandhi's life through today's lesson. I want to solve problems like him.	○多様な考えを持たせるために、他のグループの生徒の発表を聞かせる。
授業研究の視点	○リテラチャー・サークルを行うことは、生徒の表現力を高めたり、やり取りを活発にさせたりする上で効果的だったか。 ○教員や生徒同士のやり取りを通して、内容理解が深まるものとなったか。		